

日本物理学会北陸支部定例学術講演会題目  
福井大工, 富山大理<sup>A</sup> 北陸 一男, 物理 電子<sup>A</sup>, 学会 太郎

Annual Meeting of Hokuriku Branch of Japan Physical Society

Sch. of Eng., Univ. of Fukui; Fac. of Sci., Toyama Univ.<sup>A</sup> K. Hokuriku, D. Butsuri<sup>A</sup>, T. Gakkai

ここに本文を枠内に収まるように書く。提出版には枠をつけないこと！枠を非表示にするには、サンプル原稿ファイルの 29 行目あたりの `\setboolean{showframe}{true}` の `true` を `false` にします。アブストラクトは A4 版 (幅 210 mm × 長さ 297 mm) 用紙の上半面を用いて、横 17 cm × 縦 12 cm の大きさの枠に収まるように書きます。外見上のフォントの大きさや等は、使用するフォントや LaTeX エンジンにより変化しますので、各自の環境に合わせて調整してください。本サンプルは `uplatex` と `dvipdfmx` を用いる想定で作成しています。また、サンプル原稿ファイルの文字コードは UTF-8 となっています。講演題目、著者名、所属、要旨本文は `\newcommand` を用いてコマンドとして定義しています。そのため、一部の LaTeX コマンドが通常通りに動作しない可能性があります (例えば `verb` や `verbatim`)。図は、`wrapfigure` 環境を用いることで、図 1 のように挿入することができます。本サンプル原稿のコンパイル時に図のファイルがないと、エラーとなります。図なしでコンパイルを試したい場合は、80 行目あたりの `\includegraphics[width=0.35\textwidth]{fig.png}` をコメントにしてください。図のサイズ、位置、余白、キャプションの位置などについては、枠のサイズ等に注意し、適宜調整して構いません。Package caption Warning: Unknown document class (or package), standard defaults will be used. の警告は大抵の場合無視しても問題ありません。(注：このサンプルは過去のを一部変更して使用しました。)

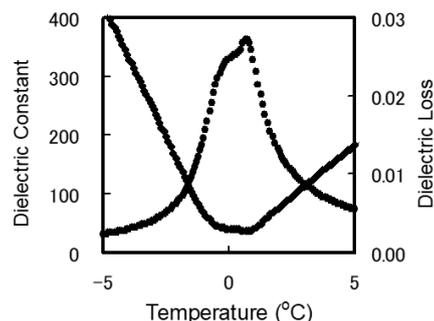


図 1: 誘電率の温度依存性